

伊勢湾再生への願い-トウシに恋するトウシ島-

日本は島国です。ぐるっとブルーの海に囲まれた、豊富な海、海。今回は、数年前の事業で何度も訪れて以来魅了された島への視察同行のお話を頂きまして、ウキウキわくわく、ドキドキな出張報告です。心躍りながら GW を過ごし、そろそろ準備。なぜか年々荷物は多くなるのです。「不安が多いと鞆が大きくなる」と何かの本に書いてあったことを思い出し、昔はポシエットや小さなカバンだったのに。。と、しみじみ思っ。さて、旅?いや視察、視察の準備だ!夫のアドバイスも受け、厳選に厳選を「四乗」ほど重ね、小型のスーツケース四輪を転がしながら、私はさっとスムーズに、鳥羽に降り立った。(と思う。)懐かしい駅と懐かしい香りを肌で感じながら合流した皆さんを拝見すると、リュック。リュックサックではないですか!まあなんと身軽。。羨ましくすぎる。私はまるで旅慣れをしていないおのぼりさんのよう。。

さて、今回は伊勢湾海域環境において進められつつある取り組みの現地の視察です。向かう電車内で多くある資料を捲るが、私の頭にはいったいどれくらい input されているのでしょうか。。ついていけるのでしょうか。。とそんな不安な気持ちを払拭させる。みんなが教えてくれた。全てを知り、理解をするまでには時間も労力も係るはずだけど、専門なことに熱がこもる言葉、やはり、現地に触れることがいちばんよい。目で読む活字より、周りに触れて声を聞いて、裸眼で見る光景はどれも感動し、活字より数段も私の中に入ってくる。現地の視察では、目視出来るほどの海藻が海中に広がり、こちらを見ている。箱メガネをお借りし、「トウシ-透視-」覗いてみると、「わぁ!すごい。すごいね。海の森が広がっている!」。海の中に広がる豊かな自然が、どれも楽しそうに身を委ね、ゆらゆらと集団でダンスを踊っているではありませんか! 場所ごとに生活をしている様々な海洋植物が「ユラユラ〜。フラダンスのような、ねえ、いっしょに踊ろうよ、ここは楽しくて住みやすいよ。サイコーの場所!」と話しかけている光景。今回の場合は、「私たち、いい仕事、しますよ〜」になるのだろうか。海の中は、いつもいろいろな音楽(波)が流れていて、感情豊かに好きなダンスを踊っている。モダンを好んだり、荒れた時などは、ほぼ全員がアクロバティックなダンスとなるのだと思う。そんなダンスの時には手足がちぎれてしまうけど(これだけの理由ではないが)、次はれっきとした「流れ藻」の世界として役割を果たしている。何と奥深い。。本体から引き離されても、場合によっては再び芽を出したり、周辺には多くのプランクトンが住み、魚の産卵の場所としての手助けをし、サーフィンの板のように移動する手段にしたり、身を守るシェルター等となり、共に生きている。素人目に見れば、ただ流れているだけと解釈していた私は、説明を聞いて見方も考え方も変わり、「ほぅ。。」と感動すらしました。きっと再びこの光景に出会うことがあると、そう説明する私がいるのでしょう。また、「あれは?」と尋ねたのは、海の一画、青々とした「アオサ」の養殖場。車中から見えたのは、初夏に見る生えそろうた素敵な green の稲の世界に似ていて、整然としていた。あの光景がお吸い物等の中に入れば、またそれはそれで違う世界感が広がる。

海も陸も豊かな自然が広がる答志島。あちこちでは、透き通るほどの美しい声でウグイスが歌い続けている。豊富な魚介類。ブランド化となった、「一本釣り 答志島とろさわら」。鱈は春を告げる祝魚であるが、答志島では 9 月からシーズンに入る。秋から冬の 1 月末頃までサイコーに脂が乗っていて美味しい。☺今回は時期が合わなかったが、これは次回のお楽しみにとっておきましょう。そう!「カメノテ」がたかさんある岩場を見せてくれた。ギザギザと怪獣の手のような「カメノテ」。(ここで静かに波とともにやってくる餌となるものをバカッと口を開けて待っているらしい。ハエトリソウと同じ。。)食べ方のレクチャーをじっくり受け、その効能?も聞きながら、夜は三重の冷酒とともに、合う合う。黒海苔はどんなものにも合わせ、ごはんのお供以外に、おやつや甘いデザート(ケーキ)のお供にもサイコーと取材をされたくらい。答志島の黒海苔は噛めば噛むほど甘いのは、答志特有の養殖場であるとのこと、ますます魅力的。磯の香りが口の中に広がり、〇〇CM と同じようなフレーズ、「もう一枚、もう一枚」と止まらなくなる。いろいろな料理が出てくるたび、巻き巻き。再び、巻き巻き。あと、メカブを薄くスライスし甘酢で味付けをした珍味。初めて食する。おばあちゃんが作っているということで、わざわざ黒海苔と共にご持参して下さった。これはサイコーに美味しい!と感じて、視察のお話を頂いた方と、「美味しい。止まらないわ!」。いろいろとインターネットで調べてみたけど、どこにも売られていない。でもちゃんと商品化されている。欲しい。もちろん「鳥羽マルシェ」に立ち寄った際にも探したが、ない。どこにもない。と、いうことは、「再び、さあ!ここへ!!」ですね。



【青空の映える TOBA marine terminal】



【宿泊ホテルからの朝 東漁港。圧巻!】



【箱メガネでのぞき込む。広がる世界】



【懇親会での沢山のカメラテ】



【楽しく、船外機 2 隻で周辺視察】



【青々した「アオサ」】